

【施策評価調査】

施策名	4-1-4	農村地域の再生と活力ある農村の創造		107	現在農業が抱える様々な問題を解決するためには、農作物生産以外にも農業・農村の持つ様々な価値を活用し、多種多様な展開を図る必要がある。この事業は、農地や山林更には過去で整備した農構事業で取得した施設等の足元の資源を活かしながら農業の振興を図りながら、地域農業の活性化を推進します。本町における農業資源を見出し、それを有効に活用することにより、新たな農業・農村の構築を図る
		※高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	建設産業部産業課	担当	農業担当		
		リーダー	矢野 雄二		
環境変化	19年度より経営所得安定対策として、品目横断的経営安定対策、米政策改革推進対策、農地・水・環境保全向上対策が実施される。20年度よりとぎの元気な森づくり事業が開始されました。				農村地域の活性化を図るためには、魅力ある地域づくりを通じて交流人口を拡大し、農村マーケットの形成を図ることが必要です。本町の農村地域資源を有効に活用する仕組みとして、町内に散在する各サテライト(衛星)農家や農業施設等と有機的なつながりを構築し、農産物の常時3次産業化していくために、加工業をはじめとする他産業と連携することが重要である。このため、農業と農村の魅力を再評価するため、都市と農村との交流事業を展開するとともに、体験農園の充実、森林ボランティア制度(※)の創設、「元気あつむら」などを活用した新しい都市間交流の提供などにより、消費者等が農村地域や農産物にもふれる機会を充実させ、農村が備える「ゆとりやすらぎ」や「いよし」を提供していきます。(※ ボランティアを募り町有林などの手入れをお願いする仕組みを検討するもの)(※高根沢町地域経営計画2006からの取組)

■指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①:元気あつむら長期修繕計画に基づく工事計画達成率	実績なし	計画	100%	100%	100%	100%	100%
	—	実績	→ 100%	→ 100%	→ 100%	→ 100%	
指標②:元気あつむら利用者数	利用者数	計画	500,000人	500,000人	500,000人	500,000人	500,000人
	500,000人	実績	↓ 480,914人	↓ 492,491人	↓ 477,096人	↓ 457,842人	
指標③:地域における木の良さ普及啓発や木の利用促進事業	参加人数	計画			400人	400人	400人
	400人	実績			↑ 570人	↑ 499人	
平成20年までの指標①は同じ ②は変更 変更前:都市部からの体験農園年間来場者数については、農家めぐりツアー参加者数を基準値としていましたが、より施策の中で重要な指標となる元気あつむら利用者数に変更しました。③については21年度より開始されました元気な森づくり県民税事業の代表的な事業の指標を追加しました。							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	51,460,000	68,063,000	71,598,000	192,011,000	
	決算	61,264,598	56,714,115	85,527,426	120,566,347	

■事務事業事後評価 21年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)			
①農産物直売農家指定事業費	当初 242,000 決算 152,100	新規指定件数 7件増 / 年間10件増	B	総指定農家戸数は45戸であります。アンケート調査を行いましたので、その結果を踏まえ22年度の事業に反映いたします。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続			
②農地・水・環境保全向上対策推進事業費	当初 15,379,000 決算 15,299,353	協定締結対象面積(単位:ha) 1,274ha / 1,226ha	A	町内10地区(12集落)において事業が展開され、3年が経過しましたことから、協同作業等により地域内の連携や環境保全に対する意識の高揚が図られ、集落が元気になりました。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続			
③土地改良施設改修整備事業	当初 7,662,000 決算 7,681,500	土地改良施設の欠損等を原因とする災害、事故等の発生件数(単位:件) 0件 / 0件	A	農業用水の安定的な確保と、増水時の災害を未然に防止する観点から、老朽化した施設について計画的に改修されています。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続			
④元気あつむら整備事業費	当初 122,353,000 決算 52,307,835	施設、設備の不適正管理による事故の発生件数(単位:件) 0件 / 0件	A	長期修繕計画に基づき、施設の修繕を行いました結果、不慮の事故等による休業を防ぐことが出来ました。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続			
⑤元気あつむら指定管理委託事業費	当初 31,400,000 決算 29,730,964	年間入浴者数(単位:人) 276,147人 / 300,000人	A	年々入浴者数の減少に関連して売上額も減少しております。しかしながら直売所においてはほぼ横ばい状況にあり、農産物全体の販売価格の低迷の中、農業者は潤っているはず。21年度も黒字経営であり、指定管理者の経営努力と判断します。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続			
⑥元気あつむら親水公園指定管理委託事業費	当初 7,900,000 決算 7,900,000	施設の不適正管理による事故の発生件数(単位:件) 0件 / 0件	A	21年度は樹木の管理作業費を増額したため、消毒作業や選定・伐採作業が行われ公園風景が改善されました。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続			
⑦元気あつむら体験の森指定管理委託事業費	当初 1,800,000 決算 1,800,000	年間施設利用者数(単位:人) 3,305人 / 5,800人	A	元気あつむら全体を指定管理委託したことにより、体験施設についても一体管理されるようになりました。結果として、集客機能が拡充されることが期待されます。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続			
⑧松くい虫防除事業費	当初 1,655,000 決算 2,089,500	過期防除の実施 2回 / 2回	A	薬剤の散布事業・樹幹注入事業・伐倒駆除を行いました。大木の赤松を保全するため継続的に必要な事業です。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続			
⑨将来まで守り育てる里山林整備事業費	当初 2,110,000 決算 2,103,384	毎年定められた面積の整備 2ha / 2ha	A	宝積寺宇サギヤ地内の荒れた山林について、下草刈り、間伐、歩道の造成を行いました。延約100人のボランティアの協力を得ています。土地の所有者や隣接する工場の従業員の悪い場となるはず。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続			
⑩みんなの森づくり支援事業費	当初 510,000 決算 501,711	森林観察会の開催 3回 / 5回	A	秋祭りにおいて、間伐材を活用したプランターづくり体験事業や、里山林に植栽事業を行いました。間伐材の有効活用と植栽事業に参加することにより、山林への愛着が生まれたのでは。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続			
⑪地域における木の良さ普及啓発や木の利用促進事業費	当初 1,000,000 決算 1,000,000	参加人数 499人 / 400人	A	NPOに委託し、間伐材を活用したマイ箸づくり事業を行い、また杉・ヒノキの間伐材を製材して体験用の資材を確認しました。間伐材を活用併せて山の学習会を実施しており、山林の大切さを学んでくれたものと判断します。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続			
	当初 決算			今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続			

■施策事後評価 21年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
	施設等の管理につきましては、指定管理者及び長期修繕計画に基づき適切に管理されています。松くい虫、森づくり事業については、国費・県費を活用し実施しました。しかし、事業における活動量のクリアが出来なかった。	元気あつむらについては、年々来客数、収入も減少しており、恵まれた施設や資源を活用し、適切に管理を行い集客を図らなければならない。県民税を活用した各種の事業については、PRが不足している。農地水事業については、5年の事業期間のうち3年が終了し、6年後以降に各集落において事業が継続されるよう指導しなければならない。
総合評価	今まで取組んできた事業を精査するとともに、現下の社会情勢を見ながら、政策である「攻めの農政」を具現化するために、これまでの成果を検証し、状況と課題を分析した上で、今後どう展開していくのか、町が行うべきことを見極め、どこに力点を置くのか、各関係機関や団体、生産者と連携した施策展開を検討すること。	